



銅繊維シートで覆われたトイレの取っ手(すぎの子幼稚園・おおぞら幼保園で)

すぎの子幼稚園・おおぞら幼保園

## 銅繊維シートを導入

### 民間初、「地元起業支援にも」

桐生市新里町にある認定こども園すぎの子幼稚園・おおぞら幼保園

園では群馬大学発のベンチャー企業「グッドアイ」(同市天神町)が開発し、桐生市内の業者などが製造する抗菌・抗ウイルス効果のある銅繊維シート「GUD(グッド)シート」を、園内のドアなどに設置した。民間施設の導入は初めて。

群馬大学が出願した特許を元に開発された同シートは銅箔(はく)でコーティングしたポリマー繊維に可視光応答型の光触媒(二酸化チタン)を塗布することで、菌やウイルスを不活性化させるとい

もの。桐生市出身の山田徹社長が営む電線用導体製造の明清産業(前橋市)が作った銅箔糸を、服地メーカーの須臾(桐生市東、須永康弘社長)が織り、朝倉

染布(同市浜松町、朝倉剛太郎社長)が販売を担う。これまでに桐生市役所本庁舎のドアなどに設置された。すぎの子幼稚園・おおぞら幼保園でも各教室の扉やトイレのドアの取っ手など、園児が触る場所に設置。園では新型コロナウイルス感染症対策として対面着席を取りやめ、各教室に手指用の消毒液を設置し、教室内の消毒にも取り組むが、すぎの子幼稚園の知久賢治園長は「銅繊維シートの設置はコロナ対策はもちろんですが、地元企業の支援になればとの思いもあります」と語る。グッドアイの板橋英之会長(群大大学院理工学府教授)は、教育現場では先生が定期的な消毒作業に追われていると聞く。このシートを取り付けることで、消毒に対する労力を減らし、子供とかかわる時間を増やしてもらえたら」と話していた。